

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：35309

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00853

研究課題名（和文）医療福祉教育系学部が多職種連携のためのブリッジ教育

研究課題名（英文）Bridge education for interprofessional collaboration for Japanese university students in healthcare, welfare and education faculties

研究代表者

小崎 順子（Kosaki, Junko）

川崎医療福祉大学・医療福祉マネジメント学部・准教授

研究者番号：50760675

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 700,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、医療現場で多職種連携が益々求められる中、医療福祉教育学部の初年次学生を対象とした英語授業活動の一環として、多職種連携の意識を高める目的で、ライティング・ピアレビュー活動とグループ・プレゼンテーション活動を実施した。このうち、ライティング・ピアレビュー活動は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、スピーチ活動を変更して実施したものである。

活動後に実施したアンケート結果より、ライティング・ピアレビュー活動においては、自らの専門分野、また他の職種への興味・関心が深まり、グループ・プレゼンテーション活動においては他者と協力しようとする意識がより高められたという結果が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、英語教育と多職種連携教育の両分野に関わる横断的な研究であり、「話すこと」「書くこと」といったアウトプットを中心とした表現活動を英語授業で実施することにより、実践的な英語力の向上を図るだけでなく、多職種連携教育の導入教育となり得る英語教育の在り方を模索しようとした点に、本研究成果の学術的意義があると言える。

また、学生が主体的に対話的な学びを深めていくことは、英語教育・多職種連携教育の双方に共通する大事な理念であり、本研究から得られた知見が、英語教育や多職種連携教育への応用を探索する契機となり、英語教育や専門教育への貢献が期待できる点に、社会的な意義があると言える。

研究成果の概要（英文）：In this study, peer-review writing activities and group presentation activities were conducted as part of English class activities for first-year students in the Faculties of Healthcare, Welfare, and Education in order to raise their awareness of the need for interprofessional collaboration in the medical field. Among these activities, the peer-review writing activity was carried out through a modification of the speech activity caused by the constraints of the COVID-19 pandemic.

The results of questionnaires administered after each activity showed that the speech activity deepened the students' interest in their own specialty and in other professional areas in the medical welfare field, while the group presentation activity enhanced their awareness for cooperation with others.

研究分野：英語教育、初年次教育

キーワード：初年次教育 多職種連携教育 協働学習 CLIL

## 1. 研究開始当初の背景

多様化する社会福祉のニーズに対応するため、多職種連携の重要性と共に、多職種連携教育(IPE: Interprofessional Education)の必要性が高まり、全学的な IPE の実施を試みる大学が増加傾向にある(前野, 2015)。このような取組の教育的効果を様々な方法で検証する試みが今後ますます必要になってくると考えられる。一方で、学生が臨地実習の場で他職種に触れる機会はあるものの、実習までに協働して学ぶ機会が少ないという現状がある(長崎他, 2015)。

以上のことから、異なる医療福祉教育系の学科の学生が同じ英語授業で学んでいる環境を活かし、英語授業で多職種連携教育への導入的な活動を試みてはどうかという着想を得た。また、近年、大学においても学習者同士が対話やアウトプット活動を通して学ぶ内容言語統合型学習(CLIL: Content and Language Integrated Learning)が注目されている(笹島, 2011)。この概念を取り入れつつ、英語教育と多職種連携教育の融合的な活動を実施し、その教育的効果を調査・検証するという構想に至った。

## 2. 研究の目的

本研究では、日本の医療福祉教育系大学1年次必修科目の春学期及び秋学期の英語授業の中で、2種類の異なる英語表現活動を実施し、それらの活動に多職種連携教育の視点を取り入れることにより、多職種連携教育のための導入教育としての英語教育の在り方を模索することを目的とする。すなわち、英語教育と多職種連携教育の両分野に関わる横断的な研究を主たる目的とする。具体的には、「異なる専門領域の学生が協働学習を行うことの教育効果」「初年次において多職種連携教育を取り入れた活動を行うことの教育効果」「英語教育と多職種連携教育の融合を目的とした活動の教育効果」の3点を検証し、英語教育の中で多職種連携に関わる新たな教育法を模索していく。

## 3. 研究の方法

本研究では、1年次必修科目の「基礎英語」及び「基礎英語」の授業時に、授業活動の一環として、「ライティング・ピアレビュー活動」と、「グループ・プレゼンテーション活動」の2種類の活動を実施した。各クラスは4～9学科の複数の医療福祉教育系学科で構成されており、クラスサイズは30名前後から60名前後である。なお、このうち「ライティング・ピアレビュー活動」については、研究開始当初は「スピーチ活動」としていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動内容を一部変更して実施した。

### (1) ライティング・ピアレビュー活動

「基礎英語」科目を履修している391名を対象として、2020年度と2021年度の春学期に実施した。全15コマ(1コマ:90分)の授業のうち3コマを使い、表1に示す通り実施した。また、全ての授業がビデオ・オン・ダイヤモンドによる非同期型遠隔授業で実施された。

表1. ライティング・ピアレビュー活動の概要

第1回	自分の専門分野や職種に関する自己紹介文の下書きをワード文書で作成し、提出。
第2回	同じ学科の学生同士の小グループ(4名程度)に分かれ、共有リンクからメンバーの自己紹介文を開き、内容等をチェック。ワード文書のコメント機能を使って、入力。
第3回	複数学科の学生が混在するグループ(7名程度)に分かれ、メンバーの自己紹介文を閲覧し、他のメンバーへのコメントをMicrosoft Teams上のグループチャンネルに投稿。

## (2) グループ・プレゼンテーション活動

「基礎英語」科目を履修している 335 名の 1 年生を対象として、2020 年度と 2021 年度の秋学期に実施した。全 15 コマ(1コマ:90 分)の授業のうち 4 コマを使い、表 2 に示す通り実施した。また、2020 年度においては、初回の授業以外は全て非同期型遠隔授業で実施されたが、2021 年度は全ての授業が対面形式で実施された。

表 2. グループ・プレゼンテーション活動の概要

回	形態	2020 年度	2021 年度
第 1 回	対面	医療福祉に関連したポスターテーマを決定	対面 医療福祉に関連したポスターテーマを決定
第 2 回	遠隔	各自スライド作成	対面 各自スライド作成 & 相互チェック
第 3 回	遠隔	相互チェック & ポスター PDF 作成	対面 ポスター作成 & 発表準備
第 4 回	遠隔	ポスター PDF 閲覧 & 相互評価	対面 ポスター発表 & 相互評価

## (3) 事後アンケート

活動の効果を検証するために事後アンケートを実施した。アンケート項目作成に当たっては、Readiness for Interprofessional Learning Scale(RIPLS)(Parsell & Bligh, 1999)と CEFR-J(投野, 2013)を参考にした。アンケートの最後には自由記述欄も設けた。アンケート結果の分析に当たっては、ライティング・ピアレビュー活動については 2020 年度 2021 年度の調査結果を合算し、グループ・プレゼンテーション活動については 2020 年度と 2021 年度を分けて分析し、有意差も併せて検証した。

## 4. 研究成果

### (1) 異なる専門領域の学生が協働学習を行うことの教育効果

ライティング・ピアレビュー活動及びポスター・プレゼンテーション活動いずれの活動においても、70%を超える学生が「他学科の人と関わる良い機会になった」と評価した(表 3、表 4)。この結果から、英語授業の中で、異なる専門領域の学生が協働学習を行いながら学びを深める場を提供することがある程度可能であると考ええる。特に、グループ・プレゼンテーション活動(表 4)においては、2020 年度の遠隔授業は 87.6%、2021 年度の対面授業は 91.3%と高い結果となり、授業形態に関わらず、グループ・プレゼンテーション活動が学生間の交流を促す良い機会になったことが示唆された。

また、「活動から得られた学び」に関する質問について、「他学科の人と一緒に学ぶことの意義」「人と協力して活動することの意義」と回答した学生の割合がライティング・ピアレビュー活動では 50%に満たなかったが(表 5)、グループ・プレゼンテーション活動では両年度ともに 60%を超えていた(表 6)。この結果から、グループ・プレゼンテーション活動は、異なる専門領域の学生が互いの意見を尊重しながら学ぶ機会となり、多職種連携の意義を考える貴重な機会となり得ることが示唆された。

### (2) 初年次において多職種連携教育を取り入れた活動を行うことの教育効果

各活動について「異なる専門分野の内容を知る良い経験になった」と回答した学生が、ライティング・ピアレビュー活動では 44%(表 3)、グループ・プレゼンテーション活動では 2020 年度が 34.3%、2021 年度が 24.0%(表 4)という結果であった。このことから、専門領域の知識をまだ十分に身につけていない初年次生が、互いの専門領域について発表したり、医療福祉テーマをグループで話し合ってポスターを作成したりといった活動は時期尚早であるという考察も可能である。

しかし、一方で「ライティング・ピアレビュー活動から得られた学び」に関する質問に対しては、65%も

の学生が「他の職種と自分の職種の違い」と回答していた(表5)。すなわち、半数以上の学生が、自分の将来の職種と他の医療関連の職種との違いを認識することが出来たと感じている。これらの結果より、大学初年次における多職種連携を意識したライティング・ピアレビュー活動は、自らの専門職種や他の職種について知るきっかけとなり、自己理解及び他者理解を促す効果が一定程度あることが示唆された。

### (3) 英語教育と多職種連携教育の融合を目的とした活動の教育効果

各活動から得られた学びのうち、ライティング・ピアレビュー活動では「専門職を説明するための英語表現」と回答した学生が63%(表5)、グループ・プレゼンテーション活動では「ポスターテーマに関わる英語表現」と回答した学生が2020年度は51.5%、2021年度は58.7%であった(表6)。このことから、半数以上の学生が、英語授業の中で多職種に関わる専門用語を学ぶことが出来たという実感が得られたことがわかる。

更に、学生の自由記述コメントには、「原稿を作る際になるべく同じ英語表現を繰り返さないように意識した。またどうしたら他の人が読みたいと思える原稿になるかを考えながら作った。」「他の人の原稿を読むことで、自分が知らなかった単語や表現等を知ることができ、知識が増えた。」といったものも散見された。このことから、読み手を意識した英文を作成しようとしたり、ピアレビュー活動を通して他の学生の英文から積極的に新たな英語表現を学んでいこうとする姿勢が伺え、英語学修に対する主体的な学びが促進されたと言える。また、オンライン上で、他の学生から届いたアドバイスや感想等のフィードバックを直ぐに確認して改善出来ることの利点を指摘するコメントも見られたことから、ライティング・ピアレビュー活動において、文書コメント機能を活かした活動の可能性を実感出来る結果となった。

今後の展望としては、学生が実際に書いた自己紹介の英文、ポスターの英文、ピアレビューコメントの更なる分析を行い、英語教育と多職種連携教育の融合を目指したより効果的な学習法や教材開発に発展させていく予定である。

表3. ライティング・ピアレビュー活動全般に係る学生の感想

Q4. 他学科の人とライティング・レビュー活動を行った感想として、当てはまるものを全て選んでください。(複数回答可)	(n=386)
楽しかった	44% (169)
他学科の人と関わる良い機会になった	70% (272)
異なる専門分野の内容を知る良い経験になった	44% (162)
緊張した	11% (44)
苦痛だった	0.02% (7)

表4. グループ・プレゼンテーション活動全般に係る学生の感想

Q4. 他学科の人とライティング・レビュー活動を行った感想として、当てはまるものを全て選んでください。(複数回答可)	2020 (n=169)	2021 (n=150)	P 値
楽しかった	43.8% (74)	71.3% (107)	<.001***
他学科の人と関わる良い機会になった	87.6% (148)	91.3% (137)	.277
異なる専門分野の内容を知る良い経験になった	34.3% (58)	24.0% (36)	.044*
緊張した	32.5% (55)	33.3% (50)	.881
苦痛だった	4.1% (7)	1.3% (2)	.131

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

表5. ライティング・ピアレビュー活動を通して得られた学び

Q6. 活動を通して、どんな学びを深めることが出来たと思いますか。(複数回答可)	(n=386)
専門職を説明するための英語表現	63% (243)
他の職種と自分の職種との違い	65% (252)
他学科の人と一緒に学ぶことの意義	44% (170)
人と協力して活動することの意義	27% (105)

表6. グループ・プレゼンテーション活動を通して得られた学び

Q7. 活動を通して、どんな学びを深めることが出来たと思いますか。(複数回答可)	2020 (n=169)	2021 (n=150)	P 値
ポスターテーマに関わる英語表現	51.5% (87)	58.7% (88)	.198
ポスターテーマに関する知識	65.7% (111)	58.0% (87)	.158
他学科の人と一緒に学ぶことの意義	64.5% (109)	66.0% (99)	.778
人と協力して活動することの意義	65.1% (110)	66.7% (100)	.767
その他	3.6% (6)	0.0% (0)	.101

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

#### < 引用文献 >

- 前野貴美. (2015). 「専門職連携教育」『日本内科学会雑誌』, 104 巻, 12 号, 2509-2516.
- 長崎和則, 竹中麻由美, 直島克樹, 進藤貴子, 土屋景子. (2015). 「多職種及び多職種連携 (IPW) に関する学生の意識と理解の変化に関する研究 演習授業コメントの質的分析を通して」『川崎医療福祉学会誌』, 25 巻, 1 号, 49-61.
- 笹島茂. (2011). 『CLIL 新しい発想の授業 理科や歴史を外国語で教える! ?』東京: 三修社.
- Parsell, G., & Bligh, J. (1999). The development of a questionnaire to assess the readiness of health care students for interprofessional learning (RIPLS). *Medical Education*, 33(2), 95-100. <https://doi.org/10.1046/j.1365-2923.1999.00298.x>
- 投野由紀夫編著. (2013). 『CAN DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFRL ガイドブック』東京: 大修館.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Junko Kosaki	4. 巻 20
2. 論文標題 Online and Face-to-Face Group Presentation Activities Focusing on Interprofessional Collaboration: A Comparative Case Study of First-Year Medical Students	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JACET Chugoku-Shikoku Chapter Research Bulletin	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Junko Kosaki	4. 巻 28
2. 論文標題 Student Online Peer Review in a Japanese EFL Setting: Writing Activities that Incorporate Interprofessional Education into Language Learning	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Kawasaki Journal of Medical Welfare	6. 最初と最後の頁 39-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Junko Kosaki	4. 巻 -
2. 論文標題 Student Online Peer Review in a Japanese EFL Setting: Writing Activities that Incorporate Interprofessional Education into Language Learning	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The JACET International Convention Proceedings: The JACET 60th Commemorative International Convention	6. 最初と最後の頁 81-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Junko Kosaki	4. 巻 26
2. 論文標題 Incorporating Interprofessional Education into Language Learning in a Japanese EFL Setting: A Case of Speech Activities	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Kawasaki Journal of Medical Welfare	6. 最初と最後の頁 49-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Junko Kosaki
2. 発表標題 English Education for First-Year Healthcare and Medical Welfare Students, Focusing on Interprofessional Collaboration: Case of Group Presentation Activities
3. 学会等名 The 61st JACET International Convention (Online, 2022) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Junko Kosaki
2. 発表標題 Student Online Peer Review in a Japanese EFL Setting: Writing Activities that Incorporate Interprofessional Education into Language Learning
3. 学会等名 The JACET 60th Commemorative International Convention (Online, 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小崎 順子
2. 発表標題 医療福祉教育系学部が多職種連携のための初年次英語教育 オンラインによるグループ活動例
3. 学会等名 大学英語教育学会中国・四国支部大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------